

米国におけるアドミッション・オフィサーの養成講座と職務

——カリフォルニア大学の事例——

中世古貴彦（九州大学），山本以和子（京都工芸繊維大学），
西郡大（佐賀大学），木村拓也（九州大学）

大学入試改革や大学経営改革の一環として，米国大学のアドミッション・オフィサーのような専門的入試担当職員の養成や配置を求める向きがある。しかし，日米の入試を巡る状況は異なるし，米国のアドミッション・オフィサーが専門職として課題を抱えていないわけではない。カリフォルニア大学における養成講座と同校の求人事例に，日本においてアドミッション・オフィサーを養成・配置する際の課題を考察する。

1 問題の所在：入試改革，大学改革とアドミッション・オフィサー

「高大接続システム改革会議『最終報告』」（高大接続システム改革会議，2016）は，「『学力の3要素』を多面的・総合的に評価する入学者選抜への改善」（高大接続システム改革会議，2016: 42），「多様な背景を持つ受験者の選抜」（高大接続システム改革会議，2016: 43），「入学者選抜で学力の評価が十分に行われていない大学における入学者選抜の改善等」（高大接続システム改革会議，2016: 44）といった「個別大学における入学者選抜改革を推進するため，各大学において，アドミッション・オフィスの整備・強化やアドミッション・オフィサーなど多面的・総合的評価による入学者選抜を支える専門人材の職務の確立・育成・配置等に取り組むことが必要」であり，「国においても，効果的な財政支援等を通じて，各大学の入学者選抜改革を促す」（高大接続システム改革会議，2016: 50）べきという見解を示した。

また，2017年度からのSDの義務化（文部科学省，2016）に先立ち，大学執行部のリーダーシップを支えるための「高度専門職」の充実を説いた「審議まとめ」（文部科学省中央教育審議会大学分科会，2014: 18）は，米国の大学に倣いアドミッション・オフィサー等を日本の大学でも養成・配置することを掲げた。

しかし，「雇用慣行や入学審査における裁量の低さと相俟って，これまで入学審査担当者の専門職化を進めるには至らなかった」（大場，2005: 9）と言われるように，日米の大学入試を取り巻く状況は大きく違う。例えばアドミッションセンターについては，本来は入試研究専門部門という役割を与えられていたが，安易に米国の情報・制度を取り入れた結果，マーケティングやAO入試の実施部隊というイメージが強調され，

役割の混乱が見られると言う（木村，2008: 91）。日本における養成・配置の議論を深めるためには，米国のアドミッション・オフィサーの職務，求められる資質，養成の実態を十分に理解しておく必要がある。

2 先行研究：専門職としての特徴

2.1 キャリアパスの不透明さ

1960~70年代の米国内の文献を主に参照しつつ「入学審査職員」のキャリアや職能開発について整理した大場（2005: 4）は，「他の領域には存在しないような専門性が明確に存在する職務領域ではなく，入学審査以外の入学者管理業務をはじめとした他の職務領域との間に，少なからぬ職員の移動が認められる」と言う事情を紹介した。だが，専門職団体であるNational Association of College Admissions Counselors（以下，NACAC）の最近の調査によると，最近の実態はもっと悲観的であるらしい。アドミッション・オフィサーは専門職として適切に定義されておらずキャリアパスが不明瞭で，24%は他の職域に移りたいと考え，43%は現在の職域で働き続けるか迷っている（NACAC，2014: 5）。また，業務は増加するが予算やポストは減少し，離職する者が多い（NACAC，2014: 6）。加えて，昇給の見込みが少なく，大学外もさることながら大学業界内の他の職域に人材を奪われてきた（NACAC，2014: 43）という，日本の大学事務組織ではあまり想定できない問題も存在する。アドミッション・オフィサー等を弁護士や税理士のように確立された「高度専門職」と並置して論じた「審議まとめ」（中央教育審議会大学分科会，2014: 18）は，こうした課題を完全に見過ごしていた。

2.2 職務の複雑化と裁量

松井（2009）は，米国大学入試における標準テス

トの重要性の低下傾向と、アドミッション・オフィサーの役割の複雑化、重要化、多様化を指摘した。実際、NACAC (2014: 6) によれば、アドミッション・オフィサーの職務は、奨学金、広報・マーケティング、学籍管理などの多様な職務領域と益々重なり合い、複雑かつ広範になっており、例えばアドミッション部門の最高責任者の 72%はプロヴオストまたは学長に直接報告するという。

他方、「アメリカの入学選抜の本質は専門職の合議による多面的視点」(出光, 2015) と言われる。山形・繁樹 (2014) によると、出願者の上位/下位の何割かは明らかに合格/不合格と判断できるので評価にあまり時間をかけず、残る半数程度の中間層についてのみ比較的時間をかけて合議を行うとされる。ただし、そもそも多様な背景を持つ担当者らが心理測定の専門性を備えているわけでもなく、「評価の信頼性は高くないことが推察される」(山形・繁樹, 2014: 174)。

3 本稿の課題：養成と職務の関係

以上のように、米国のアドミッション・オフィサーを取り巻く状況はあまり楽観的ではないが、その職務は複雑度を増している。また、日本の政策文書で特に期待されている入学選抜業務に関しては、評価者としての専門性について懸念がないわけではないが、相当の裁量を与えられている。

では、複雑化、多様化していると言われる職務の実態はどのようなものなのか。また、それに対応してどのような養成方法がとられているのか。

そこで本稿は、カリフォルニア大学 (以下、UC) を事例として取り上げ、実際の職務や必要な資質等を踏まえてアドミッション・オフィサーの養成方法について検討する。UC の複数のキャンパスは Extension (公開講座) としてアドミッション・オフィサーの職域に対応した certificate program を提供している。その内、比較的ウェブサイトの充実したロサンゼルス校 (以下、UCLA) とバークレー校 (以下、UCB) のプログラムを取り上げる。また、実際の職務等は UC 各キャンパスの求人情報を用いる。

4 UC の養成講座と職務等

4.1 UCLA Extension の養成講座

UCLA Extension は、College Counseling というプログラムを提供している。表 1 の 10 コースのうち、必修 6 つと、選択 1 つを 20 クォーター (5 年) 以内に履修する必要がある。Practicum in College Counseling では 65 時間の進路相談の実習を行うが、他はすべてオンライン講義で、職務に関連する個別のトピックを修得する。総勢 21 人の講師の保持する学位は、Ph.D.3 人、Ed.D.2 人、修士号 12 人等で、大学での関連業務経験者は 7 人、高校での進路相談経験者は 12 人である。プログラムの名称が表すとおり、

表 1 UCLA Extension, College Counseling のカリキュラム

コース名	概要	単位	価格
Counseling the College Bound Student	college counselorの職責、業務の流れ、仕事上の資源、オフィス運営、プログラムの企画方法などを学ぶ。	4.5	\$792
The College Admissions Process	出願日程、大学選び、公私立大学の選抜基準などを学ぶ。	4.5	\$792
Financial Aid Fundamentals	奨学金の歴史、類型、応募方法、受給資格、決定方法、検索サービスなどを学ぶ	4.5	\$792
Testing/Career Assessment	各種標準テストの測定内容、妥当性、問題点、受験指導の影響などと、キャリア指導の方法を学ぶ。	4.5	\$792
Special Issues in College Counseling	学習障害、不法滞在、第一世代、性的マイノリティ、編入学などの学生集団に関して学ぶ。	4.5	\$792
Practicum in College Counseling	指導の下での65時間 (又は35時間+研究課題) のフィールドワーク。オンラインで経験をシェア。	6.0	\$545
The Business of Educational Consulting	教育コンサルタント業を始めるための事業計画、料金設定、契約、ソーシャルメディアの利用等を学ぶ。	4.5 選択	\$792
College Counseling for International Students	奨学金、ビザ、(ランキングより) 自分に合う大学選びの重要性を理解させるなどの留学生支援を学ぶ。	4.5 選択	\$792
Higher Education in the Public Interest	入学選抜や奨学金政策への理解を深めるための高等教育論を学ぶ。	4.5 選択	\$792
Finalizing the College Counseling Process	他のコースで学んだ理論や情報を応用し、生徒や家族が最終的に大学を決定する支援をPBLで学ぶ。	4.5 選択	\$792

UCB Extension (2016) を基に筆者作成。

表 2 UCB Extension, College Admissions and Career Planning のカリキュラム

コース名	概要	単位	価格
Career Planning for College Admissions	専攻と職業の選択を支援する方法、ツール等を学ぶ。日曜終日、8回、68時間。	4	\$995
College Admissions Advising A	進学の実現性の評価、資金計画、選択肢の検討などを学ぶ。土曜終日と火曜日夜、10回、60時間。	4	\$1,005
College Admissions Advising B	上記Aの続きで、選抜過程、テスト、エッセイ、奨学金、特殊なニーズ（アスリート、障害、再入学、外国人、過少代表）などを学ぶ。60.5時間	4	\$1,005
Counseling Techniques for Educators	カウンセラー、教員、管理者が教育現場で使用できるカウンセリング手法を学ぶ。土曜終日、4回、32時間。	2	\$495
Practicum in College Admission Advising	メンター役と共に高校やNPOで40時間の実習。木曜夜に3回の講義、9時間。	1	\$405

UCB Extension (2016) を基に筆者作成。

特に進学相談に関する専門性の習得を主眼としている。主な対象として、大学の入試担当職員だけでなく、高校等の進学相談員も例示されている。必要なコースを履修するだけで\$5,297 を要する（教科書代や登録料等が別途必要）。

4.2 UCB の養成講座

UCB Extension は、College Admissions and Career Planning というプログラムを提供している。表2の5つのコース全てを5年以内に履修し、GPA3.0以上を修める必要がある。授業は基本的に平日夜間や週末に全て対面で開講されるが、40時間の進路指導実習も行われる。総勢6人の講師の保持する学位は、Ph.D.3人、修士3人で、大学での関連業務経験者が3人、高校の進路相談経験者が5人いる。講師のうち2人はUCLAの講師と同一人物で、1人は長年高校の進路相談に当たってきたカウンセラーで、もう1人は全国・地方の専門職団体の要職を務めてきた人物である。プログラムはNACACのadvising standardsに準拠し、UCLAと同様に進路相談を中心に構成されている。受講者像は具体的に示されていないが、「高校から大学、また大学から職業への学生の移行を助けるために必要な奥の深い知識や技術」を授けるプログラムとされ、例えばCounseling Techniques for Educatorsのコースでは初中等学校や大学の教職員が使える手法を学ぶとされる。授業料は合計で\$3,905となる（教科書代や登録料等は別途必要）。

4.3 カリフォルニア大学の求人

表3は、先述したUC各校の求人情報16件の一覧である。職名は必ずしもアドミッション・オフィサーとは限らない。繁忙期に願書を処理する採点員（例えば通番3, 4等）、国際プログラムの調整や国際入試

の担当者（通番5, 13）、運転免許が必要で残業や週末勤務も多いリクルーター（例えば通番7）など、様々なタイプがあることがわかる。勤務先は本部の入試部等とは限らず、季節労働的なポストも多く、給与はそれほど高くない。

表4は、表3の求人の応募要件や職務内容の集計結果である。まず応募要件としては、犯罪歴等のチェック（11件）や、運転免許証の保持（8件）と言った条件が付くことが多い。また、学生の多様性への理解（16件）、学務や奨学金に関する知識（14件）、入試業務や学籍管理用のソフトウェア等の使用経験（11件）等が求められることが多い。統計や調査の知識や経験（6件）が求められたり、個人情報などの機密を適切に取り扱う能力（5件）、データの入力・管理に必要な細心の注意力（4件）が要求されたりするポストも比較的多い。

次に職務に関しては、学生の募集に関わる業務だと、説明会等のイベント企画・対応（11件）、学校訪問（8件）、それらに付随する個別面談（11件）等を行うことが多い。

選抜に関する業務では、大半のポストが応募書類や出願資格の確認・処理（13件）を行うが、複雑なケースでは上司や教員に相談する（6件）、最終判定に直結する評価まで行う（8件）、意欲、社会経済的状況、進学の困難度等を評価する（5件）、出願要件等の特例について判断する（3件）等の違いがある。

データ・管理系の業務では、判定結果のデータベースへの入力や学籍管理システムへの橋渡し（7件）や、それらのデータの分析・報告（7件）が多い。

新たな手法等を開発するような業務では、スタッフ（学生を含む）の訓練、監督（6件）や、市場調査や戦略立案（7件）を行うポストが多い。

表 3 UC のアドミッション・オフィサーの求人

通番	大学	職名	概要	勤務部局	任期(月)	給与
1	UCB	Admissions Coordinator	教育学大学院で、学生学習支援ディレクターや教員の指揮下で、学生募集活動全般とデータ管理を行う初級のパートタイム職。	Graduate School of Education	12	\$32,486
2	UCB	Admissions Specialist	大手老舗ビジネススクールで、実務経験を生かし出願処理、採点員訓練、ウェビナー等のイベント対応等を行う。判定に直結する評価はしない。	Haas Core Programs	不明	\$47,750
3	UCB	Undergraduate Admissions Reader	大手老舗ビジネススクールの学部プログラムへの出願を毎週約75件処理する採点員。判定に直結する評価も。実務経験や上級学位を要するが、11週間のパートタイム。	Haas Core Programs	3	\$28,800
4	UCB	Admissions Reader	大手老舗ビジネススクールの出願を毎週30~40件処理する採点員。当該分野の教育に精通し、判定に直結する評価も。任期9ヶ月のフルタイム。	Haas Core Programs	9	不明
5	UCB	Communications and Recruitment Specialist	エクステンションの国際プログラムの海外代理人等との連絡調整、卒業式仕切、広報戦略、問合せDB管理、出願者追跡等、運営全般を監督。マーケティングの豊富な経験が必要。	UNEX (エクステンション)	24	\$51,850
6	UCB	Admissions Specialist	大手老舗ビジネススクールの出願処理の準備や採点員の訓練、進学相談、ウェビナー等のイベント対応等を行う任期8か月のポスト。	Haas Core Programs	8	\$42,403
7	UCD	Admission Analyst & Advisor	学部入試部勤務で、州内外でリクルート活動。残業、週末勤務、出張も多い。代替プラン提案等の経験が必要で、条件付き合格や不合格者とも面談。	Undergraduate Admissions	9	\$51,744
8	UCR	High School Advisor	社会的に不利な家庭の生徒の進学支援のための、外部資金による5年間のプロジェクトを補佐する、9~12か月のポスト。	Office of Trio Programs	9	\$36,225
9	UCR	Admissions Diversity and Recruitment Specialist	学部入試部で、特に過小代表マイノリティや編入学生の増加のため、高校訪問、出願書類の確認、市場調査などを行う任期12か月のポスト。	the Office of Undergraduate Admissions	12	\$48,350
10	UCR	Admissions Recruitment Specialist	学部入試部で編入学の選抜全体に関与し、コミカレ訪問、情報提供、進学相談、出願処理、データ分析、戦略立案等を行う。	the Office of Undergraduate Admissions	不明	\$48,350
11	UCR	Articulation Specialist	Articulation Officerを補佐し、その監督の下で、編入学協定の更新や学生情報システムへのデータ移行、進学情報の提供などを行う初級の職。	the Office of Undergraduate Admissions	36	\$44,050
12	UCR	Admissions Recruitment Specialist	学部入試部で、優秀な高校生をリクルートするプログラムの出願資格評価全般に関わる。編入学処理も。一定の経験必要。	the Office of Undergraduate Admissions	不明	\$48,350
13	UCR	International Admissions Specialist	学部入試課で、国際入試対応。海外学校訪問、広報資料作成、海外制度研究等を行う。単独で出願を評価し、入学要件の例外を認める権限もある。	the Office of Undergraduate Admissions	不明	\$53,400
14	UCSC	UC-Wide College Facilitator	社会的に不利な家庭の生徒の進学を支援するプログラム実施を補佐する。アウトリーチ、活動記録作成、出欠管理、追跡調査、予算管理等幅広く担当。	Educational Partnership Center	12	\$41,472
15	UCSC	Transfer Preparation Program Outreach Representative	入試部で、州内コミカレ向け編入学準備プログラムに携わる。海外含む複雑な出願や特例について判断する権限有り。最大週4日出張。	Admissions Office	不明	\$41,472
16	UCSC	Admissions Freshman Reviewer	入試部で、事前に研修を受けた上で方針に基づき出願処理やデータ管理を行うパートタイム職。	Admissions Office	不明	\$28,137

2016年11月1日に大学求人サイト Higher Ed Jobs (<https://www.higheredjobs.com/>) にて、「Admin - Admissions and Enrollment」の区分で UC 各校が掲出していた求人 19 件のうち、学籍管理等を主とした求人 3 件を除外し、残る 16 件について集計。給与が範囲の場合は階級値。時給の場合フルタイムなら一日 8 時間労働、週 5 日、月 4 週、12 か月の労働を行ったものとして年額換算。パートタイムなら提示されている所定の時間に基つき年額換算。UCD=UC デビス校, UCR=UC リバーサイド校, UCSC=UC サンタクルーズ校。

表 4 UC の求人に応募要件/職務内容

	応募要件/職務内容	該当数	
応募要件	犯罪歴、身元確認	11	
	運転免許証	8	
	事前研修受講	2	
	多様な学生の理解・経験	16	
	学務や奨学金の知識	14	
	ソフト、システム使用経験	11	
	統計・調査の知識・経験	6	
	機密取扱い能力	5	
	細部への注意	4	
	教育一般の知識	3	
	不利な学生向け支援の経験	3	
	顧客対応技術	3	
	英語以外の外国語力	3	
	国際系業務経験	2	
	広報の専門知識・経験	2	
	デザイン能力・経験	2	
	説明会等イベント	11	
	学校訪問	8	
	個別面談	11	
	問い合わせ対応	5	
募集系	キャンパス訪問対応	4	
	家庭・地域・部局等と連携	7	
	広報の企画・作成・配布	6	
	大学を代表し発信・会議参加	5	
	不利な学生の進学支援	4	
	入試対策、進学指導等の支援	2	
	合格者への入学前対応	3	
	協定の管理	2	
	書類、資格の確認・処理	13	
	複雑な件は上司や教員に相談	6	
選抜系	最終判定のための評価	8	
	意欲、社会経済的状況、困難度等の評価	5	
	特例の判断	3	
	外国からの出願処理	7	
	編入学の単位互換確認	4	
	データベース	DB入力・管理等	7
		データ分析・報告	7
		プログラム参加者の追跡調査	2
		トラブル発生時の対応	4
		予算管理	2
活動報告書作成		2	
上司等の補佐		3	
開発系		選抜・募集手法の開発	5
		スタッフ訓練、監督	6
		改善提案	3
	市場調査、戦略立案	7	

非常に一般的な要件（コミュニケーション力、問題解決力、積極性等）は割愛。「学校訪問」は、国内の高校のみならず、コミュニティ・カレッジや外国の学校への訪問も含む。

図1は、これらの求人の要件や職務内容について多重対応分析を行い、求人通番（1~16）を事後的にプロットした結果である。横軸である次元1は、右側に「運転免許」「学校訪問」「大学を代表」等の学外業務に関するものがあり、左側に「DB管理」「意欲・困難等評価」等の学内業務があることから、対外的か対内的かを示す軸と解釈できる。縦軸である次元2は、上側に（低所得者などの進学に不利な学生を支援する）「プロジェクト」「分析・報告」「DB入力・管理」等の入学者選抜に付随する業務があり、下側に「意欲・困難等評価」「複雑なら相談」「最終評価」等の選抜業務自体あることから、入学者選抜の周辺業務か本来業務かを示す軸と考えられる。

第1象限には、過小代表マイノリティや低所得学生の進学支援を行うプロジェクトに従事する求人が集まった（通番8, 14）。

第2象限には Coordinator や Specialist と呼ばれる、「細部への注意（力）」が応募要件であるデータ管理を中心とする求人（通番1, 2, 6, 11）が集まった。

第3象限には、Reader や Reviewer と呼ばれる、出願書類の処理を中心に担当する、パートタイムや薄給の求人（通番3, 4, 16）が集まった。

第4象限には、Recruitment Specialist と呼ばれる、統計や調査のスキルを使いながら戦略を立案し、大学を代表して家庭・地域・各部局と連携して学生を募集する求人（通番9, 10, 12）が集まった。

編入学リクルーターである通番15、国際対応を主に担当する通番5, 13、リクルーター兼採点員のような通番7は、今回の分析では他の求人とやや離れた位置にプロットされた。

5 まとめ

本稿が取り扱ったのは米国の養成講座や求人情報のごく一部であることに留意すべきであり、特に求人情報による職務や応募要件は、比較的初級ないし短期のポストのものに集中していたおそれがある。一般化には慎重さが必要だが、アドミッション・オフィサーについて以下のような知見が得られたと言えよう。

第1に、一口にアドミッション・オフィサーと言っても、実際の職務内容や応募要件の違いによる下位分類がいくつか存在する。本稿は、この職種の具体像をある程度描き出したと思われる。

第2に、進路相談の実習を重視するカリキュラムや講師陣の経歴等からは、養成段階では高校との連携が特に重視されていると言える。本稿の知見は、出光

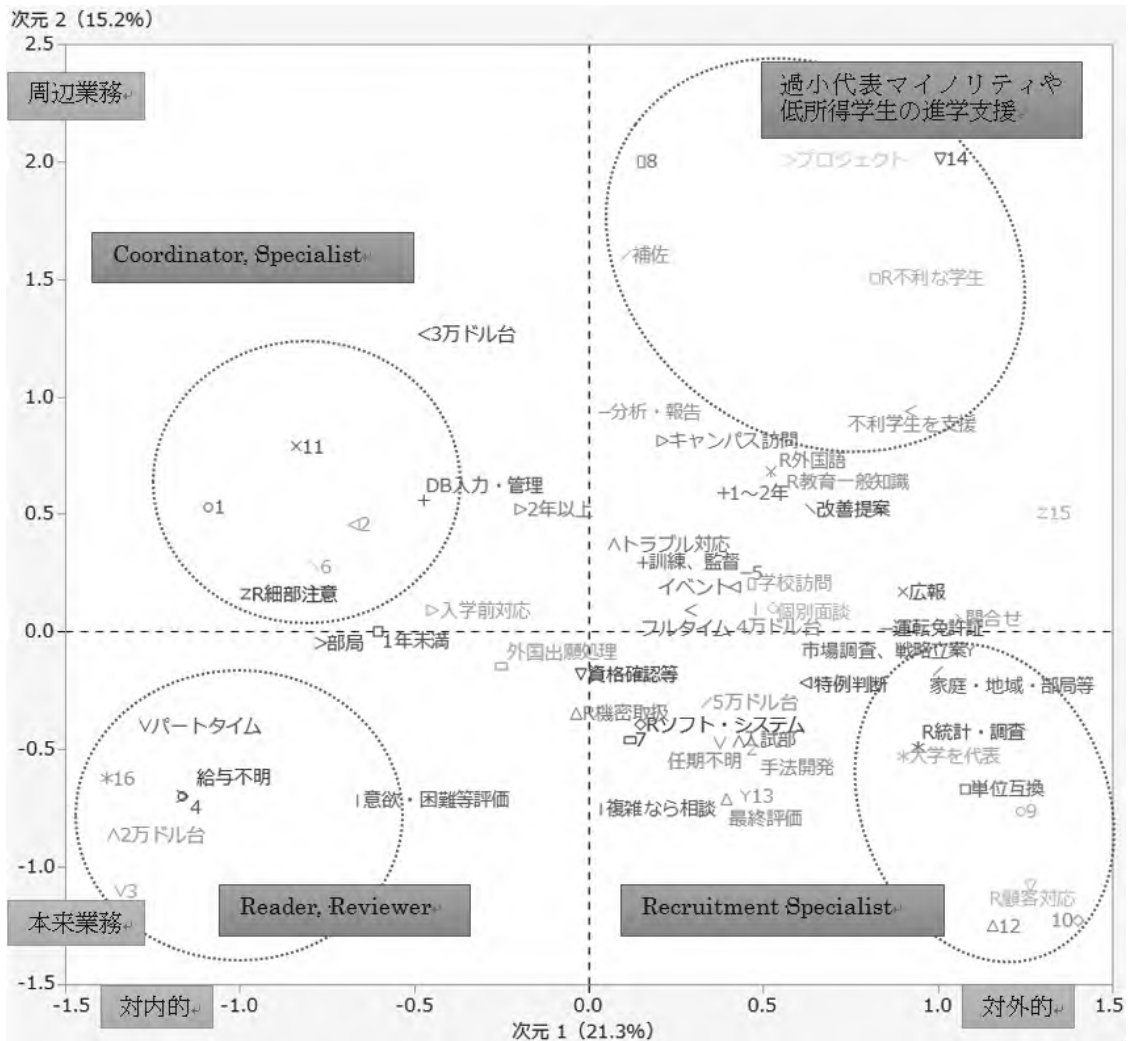


図 1 多重対応分析の結果

該当数が 2 件以下や、「不明」が多い応募要件、職務内容は分析に含めなかった。また、ほぼ全件が該当する「多様な学生の理解・経験」「学務や奨学金の知識」と、単にキャンパス間で書式が違うために該当/非該当が分かれていると思われる「犯罪歴、身元確認」も除外した。変数名の前に「R」とあるのは応募要件 (Requirements) を意味する。

(2015: 13) の「高大接続の場面で、大学と高校の当事者同士が同じコミュニティを形成し、相互理解を深めながら倫理規定を整備したり、それぞれの力量を高める研修を行ったりしているからこそ、成績証明書や推薦書の信頼性も向上する」という指摘とも整合的であると考えられる。

養成方法や具体的な職務がある程度把握されたとしても、問題はこうした特徴が日本のモデルとなり得るかどうかであろう。米国の大学の「支援専門職」や「非教員専門職」の中でも、アドミッションをはじめとする教育サービス職はここ数十年で最も急速に拡大している専門職だと言われる (Rhoades, 2007 金井訳 2015: 173)。日本でも相当する専門職が今後増加していく

とすれば、養成方法等について更なる検討が必要となるだろう。

附記

本研究は、平成 28 年度に認定された教育関係共同利用拠点「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」における「次世代型大学教育開発拠点」(九州大学、平成 28~30 年度)の研究成果の一部である。

参考文献

出光直樹 (2015) . 「アメリカの入学者選抜の本質は専門職の合議による多面的視点」『Between』2015 年 6-7 月号, 11-13.

- 木村拓也 (2008) . 「アドミッションセンターの系譜学——何故、そして、どのような入試研究が求められてきたのか?——」 『日本テスト学会第6回大会発表論文集』, 88-91.
- 高大接続システム改革会議 高大接続システム改革会議『最終報告』 2016年3月31日 <http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf> (2016年12月1日)
- 松井範惇 (2009) . 「アメリカの大学アドミッションとアドミッション・オフィサーの新しい課題」 『大学評価・学位研究』 10, 3-23.
- 文部科学省中央教育審議会大学分科会 大学のガバナンス改革の推進について (審議まとめ) 2014年2月12日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1344348.htm> (2016年12月1日)
- 文部科学省 大学設置基準等の一部を改正する省令の公布について (通知) (27文科高第1186号) 2016年3月31日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1369942.htm> (2016年12月1日)
- NACAC (2014) . *Career Paths for Admission Officers: A Survey Report*, NACAC.
- 大場淳 (2004) . 「米国の大学における入学審査職員に求められる能力とその開発」 『大学行政管理学会誌』 8, 55-61.
- Rhoades, G. (2007) . "The Study of Academic Profession," in Gumpert, P. (eds.), *Sociology of Higher Education: Contributions and Their Contexts*, Johns Hopkins University Press. (金井徹訳 (2015) . 「大学教授職」 『高等教育の社会学』 玉川大学出版部, 155-194.)
- UCB Extension. "Certificate Program in College Admissions and Career Planning," UCB Extension <<http://extension.berkeley.edu/public/category/courseCategoryCertificateProfile.do?method=load&certificateId=17128&selectedProgramAreaId=11464&selectedProgramStreamId=15585>> (2016年11月15日)
- UCLA Extension. "College Counseling," UCLA Extension <<https://www.uclaextension.edu/public/category/courseCategoryCertificateProfile.do?method=load&certificateId=1061730>> (2016年11月15日)
- 山形伸二・繁樹算男 (2014) . 「米国の競争性の高い大学におけるアドミッションズ・オフィスの機能」
- 繁樹算男編『新しい時代の大学入試』金子書房, 153-179.

